

海軍公報 第二千九百九十八號

昭和十二年三月十日(水)
海軍大臣官房

○ 週 牒

航本第六五七號

海軍航空機基本部品制式中左ノ通改正ス

昭和十二年三月六日

海軍航空本部長

海空 No. 520—2 發動機發火系統無線不感裝置組立(其ノ二) 中、註 2 ノ次ニ「3. 無線不感裝置發火檢使用ノ際ハ海空 No. 520—11, 12, 14, 15, 16, 17, 18 ハ使用セズ」ヲ加フ

○ 訓 令

海軍省出仕海軍少佐 中川 壽雄

海軍省教育局ニ於テ服務スヘシ(請海軍大臣)

○ 辭 令

海軍豫備少尉正八位平岡健二郎本月八日横須賀海軍病院ニ於テ死去セリ

恩賜研學資金受賞者銓衡委員ヲ命ス
海軍機關中佐 江本 傳三郎
海軍機關少佐 福永 益哉
海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス(以上請海軍省)

○ 雜 款

○ 轉任
海軍書記築田稻苗ハ南洋廳屬ニ、同竹島笹市ハ南洋廳技手ニ就レモ本月五日轉任セリ

海軍大尉正七位勳六等坂本 龍、海軍二等航空兵曹勳八等西澤善治郎本月八日飛行訓練中遭難同九日殉職、明十一午前九時三十分軍艦摩耶ニ於テ海軍葬儀執行

海軍公報 第二千九百九十九號

昭和十二年三月十一日(木)
海軍大臣官房

○ 辭令

大島 治喜太
横須賀海兵團劍道教師囑託ヲ解ク(請海軍省)

○ 雜款

海軍中佐正六位勳六等前田清馬昨日死去、本十日軍艦加賀ニ於テ告別式執行
追テ葬儀ハ郷里ニテ行フ豫定

海軍公報 第二千九百九十九號 昭和十二年三月十一日

海軍公報 第三千號

和和十二年三月十二日(金)
海軍大臣官房

本紙ト引換ノ上舊紙ハ適宜燒却相成度

○令達

官房第一三〇九號

昭和十二年三月十一日

海軍大臣

各所屬長官殿

雅仁親王同妃兩殿下御渡英ニ關スル件訓令

雅仁親王同妃兩殿下來三月十八日午後三時橫濱港發日本郵船株式會社汽船平安丸ニテ御渡歐アラセラレ候ニ付御乘船ト遭遇スル海軍艦船ハ登舷禮式ヲナシ奉送スベシ

○辭令

海軍中佐 前田 精

高等軍法會議判士ヲ免ス(海軍省)

○雜款

海軍公報 第三千號 昭和十二年三月十二日

○總代

雅仁親王同妃兩殿下來十八日御渡歐アラセラレ候ニ付在京高等官總代トシテ當日橫濱港迄奉送スベキ旨左記ニ訓令セラレタリ

海軍中將 住山 徳太郎

海軍公報 第三千一號

○ 雜 款

進水
驅逐艦涼風本月十一日浦賀船渠株式會社ニ於テ進水セ

海軍大尉正七位勳六等鳥生輝男昨十二日死去、明
十四日午後二時佐世保市菜切葬祭場ニ於テ佛式ニ
依リ告別式執行

退役海軍少將從四位勳三等功四級外波内藏吉本月
十一日卒去、明十四日午後一時ヨリ同二時迄東京
市赤坂區青山高樹町一二ノ一六號自宅ニ於テ神式
ニ依リ告別式執行

豫備役海軍中佐從五位勳四等本間 清ハ昭和十一
年四月二十五日失踪ノ宣告ニ依リ同十年九月二十
五日卒去ト看做サル

昭和十二年三月十三日(土)
海軍大臣官房

豫備役海軍主計大佐正五位勳三等江副巽昨十二
日卒去、明後十五日正午東京市麻布區一本松賢崇
寺ニ於テ佛式ニ依リ葬儀、午後一時ヨリ同二時迄
告別式執行

海軍公報 第三千一號 昭和十二年三月十三日

海軍公報 第三千二號

昭和十二年三月十五日(月)
海軍大臣官房

○ 辭 令

○昭和十二年三月十五日

任海軍書記

給七級俸

任海軍技手

給月俸七拾圓

(各通)

任海軍技手

給七級俸

(各通)

任海軍技手

給月俸六拾圓

給二級俸(海軍省)

勳七等

橋本 良造

井上 重二

宮崎 滿正

薦田 新一

景浦 賢三

吉岡 俊太

島中 順

海軍技手 竹下 謙五

横須賀海軍航空隊附ヲ命ス

海軍書記 橋本 良造

(各通)

海軍技手 井上 重二

同 宮崎 滿正

同 薦田 新一

佐世保海軍建築部勤務ヲ命ス

同 同

(各通)

同 景浦 賢三

同 吉岡 俊太

同 島中 順

佐世保海軍建築部勤務ヲ命ス

海軍大佐 戸上 虎次

佐世保海軍建築部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

同 岩田 茂

但シ報酬年額千參百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報 第三千二號 昭和十二年三月十五日

二二七

(各通)

中村 守
入江 弘

海軍兵學校ニ於ケル教授ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{三カ月}同)

海軍少佐 中川 壽雄

第一課勤務ヲ命ス(請海軍省教育局)

○ 雜 款

海軍中佐從五位勳六等前田清馬本月十日卒去、明十六日午後二時熊本縣鹿本郡千田村ニテ葬儀執行

海軍公報 第三千三號

昭和十二年三月十六日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令

東京帝國大學助教授 淡路 圓治郎
海軍航空本部ニ於ケル實驗心理學應用ニ關スル事務
囑託ヲ解ク(三十四海軍省)

○ 雜款

○進水
驅逐艦滿潮昨十五日株式會社藤永田造船所ニ於テ進水
セリ

海軍技手竹下鎌五ハ本月十四日死去セリ

○正誤
昨十五日辭令欄上段末行「竹下謙五」ハ「竹下鎌五」
ノ誤

海軍公報 第三千三號 昭和十二年三月十六日

海軍公報 第三千四號

昭和十二年三月十七日(水)
海軍大臣官房

○令達

官房第一四一九號 昭和十二年三月十七日
海軍大臣官房第五三〇九号
ニテ本号廢止
 當分ノ間海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒又ハ海軍
 經理學校生徒ニ採用ノ爲召喚セラレタル者入校前其ノ
 地ニ滞在ヲ命ゼラレタル場合海軍内國旅費規則第三十
 五條ニ依リ之ニ支給スベキ宿泊料ハ着校ノ日ヨリ入校
 ノ日又ハ採用セララルニ至ラズシテ歸還ヲ命ゼラレタ
 ル日迄ハ右規定ニ拘ラズ滞在申一夜ニ付六十錢ヲ支給
 ス

昭和十二年三月十七日
海軍大臣



○通牒

艦本第一五五八號
 昭和四年十一月海共第二四六號海軍共濟組合購買所及
 同病院ノ手元保管金表中左ノ通改正ス

昭和十二年三月十七日

海軍艦政本部長

購買所ノ部平壤ノ欄ノ次ニ **旅順** 一〇〇ヲ加へ
 病院ノ部徳山ノ欄「一〇〇」ヲ「二五〇」ニ改ム

○辭令

海軍大佐 日野 昇一
 横須賀鎮守府ニ於ケル業務ヲ囑託ス(前海軍省)
 海軍機關大佐 阿久津 國作
 横須賀海軍工廠職工教育業務ヲ囑託ス(同)

○雜款

○出發
 大角特命檢閱使一行ハ來四月二日午後三時東京驛發、
 四月三十日午前七時十分東京驛歸着ノ豫定

0342

海軍公報 第三千四號 昭和十二年三月十七日

○改姓

海軍軍醫少佐松岡純一ハ日下志ト改姓ノ旨本月十日届
出テタリ

海軍少佐正六位勳五等川嶋忠一、海軍大尉正七位
勳六等村上義武本月十六日飛行訓練中遭難殉職、
明十八日午後一時横須賀海軍航空隊ニ於テ佛式ニ
依リ海軍葬儀執行

二三二

海軍公報 第三千五號

昭和十二年三月十八日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一四二五號

來二十一日春季皇靈祭同神殿祭ニ付在京諸官ハ當日左ノ通心得ベシ

昭和十二年三月十八日

海 軍 大 臣

一、午前九時三十分賢所參集所ニ參集スベキ者
親任官、勅任官同待遇

一、正午ヨリ午後一時迄ニ參拜スベキ者
奏任官同待遇並ニ判任官以下ニシテ位勳ヲ有スル者

一、午後一時ヨリ同二時迄ニ參拜スベキ者
位勳ヲ有セザル判任官同待遇
服裝 正裝、大禮服

○雜 款

○改名
海軍少尉候補生 守 清ハ恭司ト改名ノ旨本月十二日届出デタリ

0344

海軍公報 第三千六號

○ 辭令

(各道)

海軍屬 塚田 福太郎

同 西岡 熊藏

海軍書記 佐藤 司朗

特命檢閱使附隨從ヲ命ス(三九海軍省)

昭和十二年三月十九日(金)

海軍大臣官房

海軍公報 第三千六號 昭和十二年三月十九日

二三五

海軍公報 第三千〇七號

昭和十二年三月二十日(土)
海軍大臣官房

○ 辭令



海軍艦政本部勤務兼造船監督助手

海軍技手 小森 寅一

吳海軍工廠附ヲ命ス(海軍省)

山本 喜久男

海軍兵學校ニ於ケル劍道教員ヲ囑託ス

但シ報酬月額六拾圓ヲ給シ部内限列任官ヲ以テ待

遇セラル(海軍兵學校)

海軍公報 第三千〇七號 昭和十二年三月二十日

二三七

海軍公報 第三千八號

昭和十二年三月二十三日(火)
海軍大臣官房

○通牒

水第一號ノ七

昭和十二年三月二十日

水路部 副官

在京各廳高等官殿

來三月二十六日(金曜日)午前 天皇陛下當部ニ行幸
被爲在旨御沙汰有之候ニ就テハ陳列品等當日ハ其ノ儘
保存致置候ニ付午後一時ヨリ四時迄ノ間ニ於テ觀覽差
支無之候

○雜款

○出發

米國 海軍艦政本部造船造兵監督長
出張 海軍機關大佐 山口 信助

四月八日午後零時
三十分 東京驛發
同日午後三時 橫濱出帆

秩父丸

○所在地變更

待命海軍大尉林 要之助ハ横須賀ヨリ吳へ所在地變更
ノ儀三月二十三日認許セラレタリ

海軍公報 第三千九號

昭和十二年三月二十四日(水)
海軍大臣官房

○雜款

○出發

歐洲 海軍中佐 佐藤 勝也

三月二十九日

出張 海軍造兵少佐 伊藤 庸二

午後一時

駐英國 海軍少佐 葦名 三郎

東京驛發

靖國丸

駐獨國 海軍軍醫少佐 藤木 愿

四月二日

神戸發

○事務引繼

前任出納官吏 海軍主計大佐 吉川 漁夫

後任出納官吏 海軍主計少佐 加藤 勳

右本月十八日事務引繼ヲ完了ス

(練習艦隊)

後備役海軍大佐從三位勳二等男爵上村從義昨二十三日薨去、明後二十六日午後一時葬儀、午後二時三十分ヨリ同三時三十分迄青山齋場ニ於テ神式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千十號

昭和十二年三月二十五日(木)
海軍大臣官房

○ 辭令

○昭和十二年三月二十五日

海軍錄事兼海軍屬 森 一海
免兼官兼任海軍書記

(各通)

福井 彦太郎
大原 勲 博
齊藤 勲 男

任海軍技手
給七級俸
任海軍技手
給月俸六拾圓
島雄 朝 矩

海軍經理學校ニ於ケル地理歴史教授囑託

峯岸 米 造

自今部内限勅任官待遇トス(三月二十五日海軍省)

東京軍法會議附兼舞鶴要港部軍法會議附

海軍錄事 森 一海

鎮海要港部軍法會議附ヲ命ス
鎮海要港部附ヲ命ス
海軍書記 森 一海

給十級俸
海軍技手 前濱 仁 作

(各通)

海軍監獄看守長 村上 敏 雄
海軍技手 前濱 仁 作

依願免本官

海軍技手 福井 彦 太郎

海軍技手養成所附兼吳海軍工廠附ヲ命ス

大原 勲 博

吳海軍工廠附ヲ命ス

齊藤 勲 男

廣海軍工廠附ヲ命ス

同 島雄 朝 矩

海軍技手養成所附兼吳海軍工廠附ヲ命ス

海軍特務中尉 佐藤 喜 三郎

大湊要港部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額七百貳拾圓ヲ給ス

海軍主計特務大尉 古賀 武 吉
海軍燃料廠探炭部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額八

百四拾圓ヲ給ス

海軍少將 甘利 恒雄

海軍航空廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

故海軍大尉河野 勇父

一金四千圓 但死亡者一時賜金 河野 滿

一金壹萬圓 但死者保護賜金 故海軍中尉田中建三父

一金參千圓 但死亡者一時賜金 田中 豊吉

一金壹萬圓 但死者保護賜金 故海軍整備兵曹長生田日 弘寡婦

一金壹千八百圓 但死亡者一時賜金 生田日 君子

一金五千圓 但死者保護賜金 故海軍一等航空兵曹和田恒也寡婦

一金壹千六百圓 但死亡者一時賜金 和田 シエロ

一金參千圓 但死者保護賜金 故海軍二等整備兵曹小林長治母

一金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 小林 ユメ

一金參千圓 但死者保護賜金 故海軍三等航空兵曹倉本重五郎父

一金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 倉本 福次郎

右大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ之ヲ給與ス(以上三十九日同)

○ 雜 款

○改姓

海軍技手池田克芳ハ末弘ト改姓ノ旨客年十二月二十四日届出デタリ

0350

海軍公報 第三千十一號

○ 雜款

○ 移轉

海軍艦政本部第五部長海軍造機少將福間忠哉宅
麻布區霞町二十二番地

○ 正誤

昨二十五日辭令欄下段三行目「給一級俸 海軍技手
前濱仁作」ハ衍

昭和十二年三月二十六日(金)

海軍大臣官房

海軍公報 第三千十一號 昭和十二年三月二十六日

(附録十頁) 二四五

海軍公報 附錄

昭和十二年三月二十六日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一五三三號

海軍購買名簿中左ノ通改正ス

昭和十二年三月二十五日

海 軍 大 臣

一地金、礦石類第七項、同第八項、同第九項、同第一〇項及同第二三項中「株式會社電氣冶金工業所」ヲ「日本電氣冶金株式會社」ニ、所在地及金澤工場ノ所在地ヲ金澤市中村町一ノ二ニ改ム

一地金、礦石類第九項及同第一一項ニ左ノ如ク加フ

日本鋼管株式會社

川崎市渡田字若尾新田
二七三〇

電氣製鐵所

富山縣射水郡新湊町
三戸新

一地金、礦石類第一九項中古河鑛業合名會社ノ行ヲ削ル

一地金、礦石類第二五項ニ左ノ如ク加フ

住友アルミニウム製鍊株式會社

愛媛縣新居郡金子村新須賀字菊本

愛媛縣新居郡金子村新須賀字菊本

<p>二金屬、材料類第三五項及同第四四項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>特殊製鋼株式會社</p>	<p>東京市蒲田區南六郷二丁目三四</p>	<p>東京市蒲田區南六郷二丁目三四</p>
<p>二金屬、材料類第三七項中合資會社金子鑄鋼所ノ所在地ヲ東京市麴町區丸ノ内三丁目二ニ改ム</p>	<p>二金屬、材料類第四〇項中「株式會社エヌチーエヌ製作所」ヲ「東洋ベアリング製造株式會社」ニ改ム <small>(球軸受ハ發射管用大型ヲ除ク)</small></p>		
<p>二金屬、材料類第四七項品名「流線型張線加工(航空機用)」ヲ「流線型及圓型張線加工(航空機用)」ニ改ム</p>			
<p>二金屬、材料類第四八項ヲ左ノ如ク改ム</p>			
<p>四八 流線型及圓型張線粗材 <small>(航空機用)</small></p>	<p>日本特殊鋼合資會社 國産工業株式會社</p>	<p>東京市大森區大森一丁目六四七五 東京市麴町區丸ノ内二丁目一六</p>	<p>東京市大森區大森一丁目六四七五 島根縣能義郡安來町大字安來</p>
<p>三機械、器具類第五項中大阪埤瑠株式會社ノ工場所在地ヲ大阪市東成區北中濱町一丁目四五ニ改ム</p>			
<p>三機械、器具類第一〇項及同第一二項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>株式會社川西機械製作所</p>	<p>神戸市林田區和田山通一丁目五</p>	<p>神戸市林田區和田山通一丁目五</p>
<p>三機械、器具類第一二項及同第一三項ニ左ノ如ク加フ</p>			

三機械、器具類第一四項中「合資會社神戸工作所」ヲ「株式會社神戸工作所」ニ改ム	株式會社上野精密螺子製作所	東京市蒲田區北糀谷町二〇二七	赤松豐次	大阪市西淀川區御幣島町二一三	赤松螺子製作所	東京市蒲田區北糀谷町二〇二七
	大阪製鐵造機株式會社	大阪此花區春日出町上五丁目二九	溝口齒車工場	大阪市西淀川區佃町一五一五		
三機械、器具類第一四項中合名會社栗崎齒車製作所ノ所在地及工場所在地ヲ東京市蒲田區東六郷二丁目一九ニ改ム	特殊合金工具株式會社	川崎市大宮町一三〇二				川崎市大宮町一三〇二
三機械、器具類第一四項ノ次ニ左ノ如ク加フ	株式會社住友電線製造所	大阪市此花區恩貴島南之町六〇				大阪市此花區恩貴島南之町六〇
三機械、器具類第二〇項ヲ左ノ如ク改ム	日本研磨砥石株式會社	京都府乙訓郡神足村大字神足	第一工場	京都府乙訓郡神足村大字神足		
二〇 以上 (裝甲板用ヲ除ク)	龜田多吉	廣島市蟹屋町七八七	第二工場	京都府伏見區深草中島町三		
			廣島製砥所	廣島市蟹屋町七八七		

海軍公報 號外

三

三機械、器具類第二〇項ノ次ニ左ノ如ク加フ		高橋兼吉	吳市岩方通二丁目一〇	吳製砥所	○吳市岩方通二丁目一
三機械、器具類第二〇項ノ次ニ左ノ如ク加フ		日本研磨砥石株式會社	京都府乙訓郡神足村大字神足	第一工場	京都府乙訓郡神足村大字神足
三〇 人造研削砥石五〇〇粒 ノ二 未滿 (裝甲板用ヲ除ク)		龜田多吉	廣島市蟹屋町七八七	廣島製砥所	廣島市蟹屋町七八七
		高橋兼吉	吳市岩方通二丁目一〇	吳製砥所	○吳市岩方通二丁目一
		三井鑛山株式會社	東京市日本橋區室町二丁目一	目黒研削砥石工場	東京市目黒區中目黒一丁目七三
		東邦砥石株式會社	京都市下京區東九條松ノ木町八三		京都市下京區東九條松ノ木町八三
三機械、器具類第二二項、同第二三項、同第二四項、同第二五項及同第二六項中「株式會社津上製作所」ヲ		東洋工業株式會社			
「東洋精機株式會社」ニ改ム		廣島縣安藝郡府中村字新地六〇四七			
三機械、器具類第二五項ニ左ノ如ク加フ		廣島縣安藝郡府中村字新地六〇四七			
三機械、器具類第三五項、同第三六項、同第三七項及同第三八項中「株式會社瓜生製作所」ヲ「瓜生製作株式會社」ニ改ム		廣島縣安藝郡府中村字新地六〇四七			

<p>三機械、器具類第三五項、同第三六項、同第三七項及同第三八項中日本空氣機械株式會社ノ所在地及工場所在地ヲ東京市蒲田區南六郷二丁目七ニ改ム</p> <p>三機械、器具類第四一項及同第四二項中國產工業株式會社ノ工場所在地ヲ神奈川縣鎌倉郡戸塚町戸塚三ノ區二一六ニ改ム</p>	<p>四電氣機械、器具、材料類第一二項、同第一三項及同第一四項中株式會社安川電機製作所ノ行ヲ削ル</p> <p>四電氣機械、器具、材料類第二二項及五計器、通信器類第四二項中「株式會社昭和製作所」ヲ「中央工業株式會社」ニ、所在地ヲ東京市京橋區銀座二丁目二ノ九ニ改メ工場名ノ欄ニ大森工場ヲ加フ</p> <p>四電氣機械、器具、材料類第二五項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>株式會社小糸製作所 東京市品川區東品川四丁目二六</p> <p>株式會社住友電線製造所 東京市品川區東品川四丁目二六</p> <p>東電電球株式會社 東京市芝區田村町一丁目一</p>	<p>四電氣機械、器具、材料類第三五項品名ニ「(發動機發火裝置用高壓電纜ヲ除ク)」ヲ加フ</p> <p>四電氣機械、器具、材料類第三五項ノ次ニ左ノ如ク加フ</p> <p>株式會社住友電線製造所 大阪府此花區恩貴島南之町六〇</p> <p>古河電氣工業株式會社 東京市日本橋區室町二丁目八</p> <p>本社工場 大阪府此花區恩貴島南之町六〇</p> <p>沼濱市神奈川區西平沼町四丁目二三</p>	<p>三五 ノ二 電纜 發動機發火裝置用高壓</p>
--	---	--	--	--

海軍公報 號外

五

四電氣機械、器具、材料類第四五項並ニ一〇ガラス類第一項、同第三項、同第四項及一七雜品類第八項中合資會社岩城硝子製造所ノ工場所在地ヲ東京市蒲田區矢口町三五〇ニ改ム
四電氣機械、器具、材料類第四九項ニ左ノ如ク加フ

株式會社小穴製作所

東京市淺草區清川町三丁目一二

東京市淺草區清川町三丁目一二

五計器、通信器類第四項、同第二四項、同第三八項、同第四〇項及同第四四項中「田中松彦」ヲ「株式會社田中計器製作所」ニ、所在地及工場所在地ヲ東京市大森區大森三丁目三六二ニ改メ工場名ヲ削ル
五計器、通信器類第一八項及同第三八項中「柳直勝」ヲ「株式會社柳製作所」ニ改メ工場名ヲ削ル
五計器、通信器類第四七項及同第四八項中「田中松彦」ヲ「株式會社田中計器製作所」ニ改メ工場名ヲ削ル
五計器、通信器類第四九項ノ次ニ左ノ如ク加フ

五〇 流 量 (船舶用)計	株式會社蘆田工業所	大阪市西淀川區大仁西一丁目四四	
	十 文 字 俊 夫	東京市豐島區巢鴨六丁目二三四	金門商會 東京市豐島區巢鴨六丁目二三四

五一 測 風 (航空機用)計	株式會社田中計器製作所	東京市大森區大森三丁目三六二	東京市大森區大森三丁目三六二
-------------------	-------------	----------------	----------------

六鑄鎖、索具類第一項及同第二項中「石原製鎖鋼業株式會社」ヲ「國光製鎖鋼業株式會社」ニ、所在地ヲ大阪市住吉區濱口町四四五ニ改ム

<p>六 鉛鎖、索具類第五項中前岡製網株式会社ノ所在地及工場所在地ヲ大阪府三島郡岸部村南一五五ニ改ム</p> <p>七 石炭、コークス類第一六項中「日本タール工業株式会社」ヲ「日本化成工業株式会社」ニ改ム</p> <p>八 煉瓦類第七項中イソライト工業株式会社ノ所在地ヲ大阪市西區江戸堀南通二丁目一〇ニ改ム</p> <p>九 石綿、珪綿類第一項、同第三項及同第四項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>東邦石綿工業株式會社 大阪府泉南郡樽井村二三九〇</p>	<p>一〇 ガラス類第一項品名「水面計用ガラス板」ヲ「水面計用ガラス板、同管」ニ改ム</p> <p>一一 油脂、蠟類第二〇項ノ次ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>再生カストル油 ミヨシ石鹼工業合資會社 東京市向島區吾嬬町東五丁目一七</p>	<p>一三 ペイント及原料類第二項ノ四品名「ヂュラルミン用サビ止ペイント」ヲ「輕金屬用特殊ペイント（金屬プロペラ用ペイントヲ含ム）」ニ改ム</p> <p>一三 ペイント及原料類第二項ノ六ノ次ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>航空機用鐵鋼防銹ペイント</p>	<p>一三 ペイント及原料類第四項ノ二ノ次ニ左ノ如ク加フ</p>
---	-------------------------------------	---	--	--	---------------------	----------------------------------

<p>四ノ 輕金屬用パテ</p>	<p>社 日本高級塗料株式會社 藤倉工業株式會社</p>	<p>東京市澁谷區幡ヶ谷 塚町九八八 東京市品川區五反田三 丁目一三二</p>		<p>東京市澁谷區幡ヶ谷 笹塚町九八八 東京市品川區五反田 三丁目一三二</p>
<p>九ノ 特殊防銹船底ズボイト ペイント</p>	<p>大日本塗料株式會社</p>	<p>大阪市此花區西野下之 町三八</p>	<p>大阪工場</p>	<p>大阪市此花區西野下 之町三八</p>
<p>一三 ペイント及原料類第一一 項ノ一中「藤木顯文」ヲ 品川區北品川四丁目七 一五ニ改メ工場名ヲ削 ル</p>	<p>一三 ペイント及原料類第一 三項ノ一ノ次ニ左ノ如 ク加フ</p>	<p>社 日本特殊塗料株式會社 社 日本高級塗料株式會社</p>	<p>東京市王子區豐島町八 七三 東京市澁谷區幡ヶ谷 笹塚町九八八</p>	<p>東京市王子區豐島町 八七三 東京市澁谷區幡ヶ谷 笹塚町九八八</p>
<p>一三 航空機用油密ペイント</p>	<p>社 日本特殊塗料株式會社 社 藤倉工業株式會社</p>	<p>東京市王子區豐島町八 七三 東京市品川區五反田三 丁目一三二</p>		<p>東京市王子區豐島町 八七三 東京市品川區五反田 三丁目一三二</p>
<p>一四 藥品類第三項並ニ一七 雜品類第一二項及同第一 三項中保土谷曹達株式會 社ノ所在地ヲ東京市芝區 今入町 三ニ改ム</p>				

一四藥品類第六項中「花王石鹼株式會社長瀬商會」ヲ「大日本油脂株式會社」ニ改メ所在地ヲ東京市向島區吾婦町東一丁目一ニ改ム

一六 糸、紐、布、氈類第一項ニ左ノ如ク加フ

目滿亞麻紡織株式會社
(防水加工セルモノヲ除ク)

東京市麴町區内幸町一丁目三

富山縣新川郡堀川町掛尾

一六糸、紐、布、氈類第九項品名 「亞麻羽布(航空機用)」 ヲ 「亞麻羽布(航空機用)」ニ改ム
(亞麻毛羽田テーパーヲ含ム) (亞麻毛羽田及切込テーパーヲ含ム)

一六糸、紐、布、氈類第一八項ノ次ニ左ノ如ク加フ

一九 ドープレヂスチングテ ープ	日本高級塗料株式會社 藤倉工業株式會社	東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町九八八 東京市品川區五反田三丁目一三二	東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町九八八 東京市品川區五反田三丁目一三二
------------------------	------------------------	------------------------------------	------------------------------------

一七雜品類第六項中「株式會社名古屋製陶所」ヲ「名古屋製陶株式會社」ニ改メ所在地ヲ名古屋市東區東芳野二丁目七ニ改ム

一七雜品類第一二項及同第一三項中理研アルマイト工業株式會社ノ所在地ヲ東京市京橋區銀座西二丁目三ノ一五ニ改ム

一七雜品類第二八項中東海電極製造株式會社ノ工場名ノ欄ニ田ノ浦工場ヲ同所在地ノ欄ニ熊本縣蒼北郡田ノ浦村ヲ加フ

一七雜品類第三〇項品名「寫真乾板（赤外線乾板及汎色乾板ヲ除ク）」ヲ「寫真乾板（汎色乾板ヲ除ク）」ニ改ム

一八被服物品第二項中「株式會社伊丹製絨所」ヲ「株式會社伊丹製絨所（フラネルヲ除ク）」ニ改ム

一八被服物品第六項ニ左ノ如ク加フ

出雲製織株式會社

島根縣簸川郡今市町一

島根縣簸川郡今市町

一八被服物品第八項中「中越製布株式會社」ヲ「中越製布株式會社（麻織地（兵夏袴用）及心地ノミ）」ニ改ム

一九糧食品第四項中朝家萬太郎ノ工場名ノ欄分工場及同工場所在地ノ欄山口縣豊浦郡安岡町大字安岡ヲ削ル

一九糧食品第五項中丹後水産株式會社ノ所在地ヲ京都府加佐郡舞鶴町北田邊一七八ニ改ム

海軍公報 第三千十二號

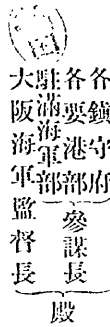
昭和十二年三月二十七日(土)
海軍大臣官房

○通牒

官房第一五九三號

昭和十二年三月二十七日

海軍省副官



海軍記念日部外講演ニ關スル件申進

本年五月二十七日海軍記念日ニ於ケル部外講演ニ關シテハ別紙ノ通海軍次官ヨリ内務、文部、拓務、鐵道、遞信、農林各次官宛照會相成候ニ付テハ左記ニヨリ講演官ヲ派遣セシメラルル様致度

記

一、講演官ノ派遣ハ別表區分表ニ依ルヲ原則トスルモ適當ナル講演官ヲ派遣スルタメ要スレバ派遣區分ニ依ルコトナク各講演官派遣應ニ於テ彼我融通シ

又ハ各地所在海軍監督官、艦隊、又ハ艦船ト協議ノ上講演官ヲ派遣スルコト

二、講演官ニハ成ルベク適任者ヲ選定スベキハ勿論ナルモ尙出身地又ハ出身校ヲモ考慮スルコト

三、實戰談ヲ希望スル向アリタル場合ニハ講演地附近ノ適當ナル離現役軍人ニ講演ヲ依頼スルヲ可トスルコトアルベキコト又各地海軍有終會支部及海軍軍事普及事務囑託タル在郷士官ト連絡シ之ヲ利用スルコト

四、講演ノ題目及要領ハ主催者ノ希望、聽講者ノ種類講演官ノ經歷等ニ依リ講演官ニ於テ適宜選定スルコト但シ中等學校以上ニアリテハ配屬陸軍將校ノ講演ト重複セザル如ク豫メ協議スルコト

五、講演參考資料ハ追テ送付スベキモ時局ニ關スル講演ノ要望多カルベキニ付軍事普及部ヨリ頒布シツツアル時局關係冊子ヲ利用スルコト

六、講演官ニ支給スベキ旅費ハ旅順要港部及駐滿海軍

海軍公報 第三千十二號 昭和十二年三月二十七日

二四七

部ヨリ派遣セララル者ノ外昭和七年官房第九九八號ニ依ルコト

尙其ノ旅行日數ハ實際所要ノ最小限度ヲ以テスル等ノ方法ニ依リ成ルベク多數ノ講演官ヲ派遣シテ部外ヨリノ希望ニ應ズルコト

講演官派遣旅費(旅費ノ費目ニ付テハ海軍省經理局ヨリ別ニ通知ス)

配付先	配付額
横須賀鎮守府	一、三五〇
吳鎮守府	一、二五〇
佐世保鎮守府	一、三五〇
大湊要港部	四〇〇
舞鶴要港部	三五〇
鎮海要港部	三五〇
馬公要港部	三〇〇
旅順要港部	二〇〇
駐滿海軍部	二五〇
大阪海軍監督官	一〇〇
海軍省	六〇〇
計	六、五〇〇

官房第一五九三號ノ二
昭和十二年三月二十七日

海軍次官

内務、文部
逓信、鐵道
農林、拓務
各次官殿

海軍記念日講演ニ關スル件照會

來ル五月二十七日ハ海軍記念日ニ相當候處本記念日ハ既ニ逐年全國民的ノモノトシテ迎ヘラルルニ至リ各地學校、團體等ニ於テ種々記念行事舉行ノ趣承知致居候ニ付テハ海軍ヨリモ別表ニヨリ講演官ヲ派遣可致候條左記事項關係各部ニ通牒方御配慮ヲ得度

記

- 一、講演官ノ派遣ニ要スル費用ハ海軍ニ於テ負擔シ其ノ派遣區分ヲ別表ノ如ク定ムルモ人員ノ都合ニヨリ若干ノ變更アルベシ
- 二、聽講者ハ成ルベク中等學校生徒以上程度、青年學校生徒、青年團員、一般有志等ヲ主體トスル様希望ス
- 三、講演日ハ五月二十七日及二十八日ノ兩日トスルモ情況ニ依リ、二十六日二十九日ニテモ差支ナキニ付各府縣廳ニ於テ適宜場所及日時ヲ統制セラレ一括シテ四月二十五日迄ニ別紙様式ニ依リ(二通)講演官派遣應ニ送附セラレ度

<p>四、人員ノ都合上要望ノ全部ニ應ジ難キコトアルベキハ豫メ諒承ヲ得度 尙講演官ヲ派遣シ得ザル各學校ニ於テハ學校長其ノ他ニ於テ記念日ニ相應スル訓話ヲ爲サルコトハ最モ希望スル所ニ有之候 (別表) 講演官派遣區分表</p>	<p>講演官派遣應 講演官派遣地</p>	<p>海軍省 東京府 (要スレバ其ノ他ニモ派遣ス)</p>	<p>横須賀鎮守府 秋田縣、山形縣、岩手縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、栃木縣、群馬縣、長野縣、山梨縣、埼玉縣、千葉縣、神奈川縣、茨城縣、靜岡縣</p>	<p>吳鎮守府 愛知縣、岐阜縣、三重縣、滋賀縣、廣島縣、山口縣、島根縣、岡山縣</p>	<p>佐世保鎮守府 福岡縣、大分縣、佐賀縣、長崎縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、德島縣、香川縣、愛媛縣、高知縣、沖繩縣</p>	<p>大湊要港部 青森縣、北海道、樺太</p>	<p>舞鶴要港部 京都府、鳥取縣、福井縣、石川縣、富山縣</p>	<p>鎮海要港部 朝鮮</p>
<p>馬公要港部 臺灣 旅順要港部 關東州 駐滿海軍部 滿洲國 大阪海軍監督官 大阪府</p>	<p>(別紙) 様式 海軍講演官派遣申込書</p>	<p>(例)</p>	<p>時刻 主催 場所 演 聴衆 演題 記事</p>	<p>自前九時 聯合青年團 區、町、學校 團員及青年一、五、四〇〇 國際情勢、海軍時事 區、小學、校內、留場下</p>	<p>自後一時 同上 中(女)學校職員及生徒一、〇〇〇 國內生活の現狀 帝國海軍 區、十丁、自動車便</p>	<p>自後七時 長郷軍分會 市、公會堂 鄉軍及一般 八〇〇 無餘約時ニ於ケル帝國海軍 區、下、自動車ノ便</p>	<p>○ 辭令</p>	

海軍公報 第三千十二號 昭和十二年三月二十七日

東京軍法會議判士ヲ命ス(海軍省)
海軍大尉 若林 茂

第三課勤務ヲ命ス(海軍水路部)
海軍技師 宮本新之助

○ 雜 款

○試驗問題發送
第七十九期普通科砲術、第十一期普通科測的術、第六十七期普通科水雷術魚雷、第八期普通科水雷術航空魚雷、第七期普通科水雷術機雷、第九期普通科運用術練習生(同一問題ニテ水雷學校ヨリ發送)

(試驗期日 十二年六月十日)
右採用試驗問題本月二十二日左記ノ通發送済

記

- 一、聯合試驗施行用ノモノハ各海軍人事部長及各要港部參謀長(舞鶴及馬公ハ各防備隊司令)ニ送付
- 二、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送ス
- 三、行動共ノ他ノ都合ニ依リ臨時所要ノ分トシテ單獨試驗用問題若干部數前記諸官宛送付シ置ケリ未着ニシテ所要ノ向ハ海軍水雷學校へ請求サレタシ

海軍砲術學校
海軍水雷學校
海軍航空學校
海軍雷學學校

海軍公報 第三千十三號

昭和十二年三月二十九日(月)
海軍大臣官房

○通牒

軍務二第六八號

昭和十二年三月二十九日

海軍省軍務局長

吳鎮守府 參謀長殿
第一、第二艦隊

外國船内地不開港場寄港ノ件通牒

外國船内地不開港場寄港出願ニ對シ今般左記ノ通免狀
交付ノ旨通牒有之候

記

第一八二號

免狀

- 一 船名 リリアンス號
- 一 國籍 獨逸
- 一 種類 汽船
- 一 船主氏名及國籍 獨逸 ハンブルグ、アメリカ

荷物運送株式會社

- 一 船長氏名及國籍 獨逸人 エツチ、キーフ
- 一 總噸數 一九、八二二噸
- 一 寄港ノ目的 觀光
- 一 寄港地名 大分縣別府、廣島縣宮島

右不開港場ニ寄港スルコトヲ特許ス

本免狀有效期間ハ昭和十二年四月十二日ヨリ昭和十二年四月十五日迄トス但シ必要ノ節ハ同期間内ト雖其ノ寄港ヲ差止ムルコトアルヘシ

昭和十二年三月二十五日

遞信大臣

(裏面)

航行心得

- 一 本船ハ帝國法令條約ヲ遵守スルハ勿論表面記載ノ港ニ於テ警察規則及各種港則ヲ遵守スヘシ
- 二 本免狀ハ何時タリトモ當該官吏ノ求メニ應シ其ノ檢査ヲ受クヘシ
- 三 本船ハ本免狀記載ノ目的外ニ使用スヘカラス

海軍公報 第三千十三號 昭和十二年三月二十九日

二五一

四 本航行心得ニ違背スルトキハ特許ヲ取消スヘシ
五 特許期間満了ノトキ又ハ特許ヲ取消サレタルトキ
ハ直ニ本免狀ヲ返納スヘシ

六 本船ハ出帆前地方應ノ檢閲ヲ受クヘシ又陸海軍ニ
於テ必要ト認ムルトキハ隨時檢閲スルコトアルヘ
シ

備考 五日市(廣島西方五湮)ヨリ津久根島、大那
沙美島東端及神瀨鼻(西能美島西北端)ヲ連
スル線以東ノ海面ニ立入ラサル様願人ニ示達
シアリ

海人第二號ノ七〇

昭和十二年三月二十九日

海軍省人事局長

各廳長殿

顯忠府拜觀ノ件通牒

本件ニ關シ左記武海第三二號通牒有之候條御了知相成
度

武海第三二號

昭和十二年三月二十五日

侍從武官長 宇佐美典屋

海軍諸例
則登載

海軍大臣 米内光政殿
顯忠府拜觀ノ件通牒

今般顯忠府新設相成候ニ付從來振天府、建安府等拜觀
被差許候資格者ニ對シ四月一日以降同府ノ拜觀ヲ可被
差許候

追テ同府ハ滿洲事變、上海事變其他ニ於ケル陸海軍
將士等ノ殉國ノ誠ヲ後世ニ傳ヘシメラルル爲御建設
相成リタルモノニ有之右拜觀手續其他ニ關シテハ振
天府拜觀ノ例ニ準シ取扱相成度

○ 雜 款

○訂正(久)
本月二十七日辭令欄二五〇頁上段四行目(三)水
部)ヲ「(三)水部」ニ訂正

海軍公報 第三千十四號

昭和十二年三月三十日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍屬 土森平太郎
 同 中川 淳造
 同 畑中 市藏
 同 小笠原馬之助
 同 小田島 勇道
 同 奥津 彰
 同 荒木 義廣
 海軍書記 安島 安

(各通)

昭和十二年四月

靖國神社臨時大祭委員附ヲ命ス(海軍省)

○ 雜款

○進水
伊號第七十四潜水艦本月二十八日佐世保海軍工廠ニ於テ進水セリ

海軍大學校教授囑託正三位勳二等三階 信三 本月二十七日薨去、本三十日午後一時築地本願寺ニ於テ葬儀、同二時ヨリ三時迄告別式執行

後備役海軍機關大佐正五位勳三等渡邊隆毅本月二十八日卒去、本三十日午後二時ヨリ同三時迄東京市小石川區大塚仲町本傳寺ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

海軍公報 第三千十五號

昭和十二年三月三十一日(水)
海軍大臣官房

○ 辭令

○昭和十二年三月二十六日

海軍技手
給六級俸

井木 正作

海軍火藥廠附ヲ命ス(二十六日)海軍省)

海軍技手 井木 正作

(各通)

海軍省事務ヲ囑託ス(二十七日起)

海軍技手 大谷 豊吉

(各通)

同 内田 實

給一級俸

海軍書記 石關 峯吉

(各通)

同 坂戸 範侃
同 海軍技手 團野 八郎
同 中島 鹿藏
同 野間 一良
同 近藤 年
同 渡邊 威之助

給二級俸

海軍局 渡邊 瀧三郎
同 細田 勝治

海軍書記 渡邊 秀雄
同 相馬 要藏

同 龜井 善
同 松下 直治

(各通)

同 川崎 宗一
同 山中 清一
同 海軍録事 上田 彝夫
同 海軍技手 石川 重吉

海軍公報 第三千十五號 昭和十二年三月三十一日

<p>(各通)</p> <p>同 大竹 健吉</p> <p>同 米川 實</p> <p>海軍書記 有吉 隆信</p> <p>同 小澤 孝一</p> <p>海軍技手 坪本 三次郎</p>	<p>給七級俸</p> <p>海軍屬 楠 和夫</p> <p>海軍技手 玄元 眞清</p>	<p>給月俸六拾圓</p> <p>海軍屬 岡本 光太郎</p> <p>海軍屬 天野 弘</p> <p>同 足立 孝</p>	<p>給九級俸</p> <p>海軍軍醫學生ヲ免ス 原田 英太郎</p>	<p>(各通)</p> <p>故海軍二等航空兵曹藤田 榮正父 <small>金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 但死者保護賜金</small></p> <p>故海軍二等航空兵曹那須 二郎父 <small>金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 但死者保護賜金</small></p> <p>故海軍三等兵曹藪下 一雄父 <small>金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 但死者保護賜金</small></p> <p>故海軍三等兵曹藪下 才太郎 <small>金參千圓 但死亡者一時賜金 但死者保護賜金</small></p>
--	---	---	-------------------------------------	---

右大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一

號ニ依リ之ヲ給與ス(以上同)

海軍大佐 鈴木 勇

海軍火藥廠ニ於ケル見習職工教育業務囑託ヲ解ク 同 大井 吉郎

海軍火藥廠ニ於ケル見習職工教育業務ヲ囑託ス(以上同)

○ 雜 款

後備役海軍軍醫大尉正七位勳六等菊地千秋本月二十八日死去、昨三十日佐世保市八幡町西方寺ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

○ 正 誤

昨三十日辭令欄中「靖國神社臨時大祭委員附」ハ「昭和十二年四月靖國神社臨時大祭委員附」ノ誤

(號外三頁)

海軍公報 號外

昭和十二年三月三十一日(水)
海軍大臣官房

○ 辭 令

○昭和十一年度ニ於ケル各鎮守府管下ノ部外官公吏其ノ他ニシテ海軍軍事功勞者ニ對スル表彰左ノ如シ

銀杯一組	退役陸軍歩兵大佐正五位勳三等	伊吹元五郎
同	後備役海軍中佐從五位勳三等功四級	小澤 潔
同	岐阜市長正六位勳四等	松 尾 國 松
同	徳島市長從六位勳六等	藤岡直兵衛
銀杯一個	退役海軍機關大尉正七位勳六等	松 尾 謹 一
同	退役陸軍主計中尉從七位勳六等	西野嘉右衛門
同	岩手縣 屬	船越市宜
同	兵庫縣 屬	佐伯光治
同	鹿兒島縣屬勳八等	大山綱則
同	大阪府	三枝孝之助

海軍公報 號外

同

山梨縣西山梨郡玉譜村書記

中山 富造

多年兵事ニ盡瘁シ海軍軍事ニ貢獻スルコト不尠其ノ功績寔ニ大ナリ仍テ(各頭書ノ通)並軍事功勞章ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス

銀杯 一個

北海道 應 三 島 義 堅

多年軍事ヲ幫助シ帝國海軍ニ貢獻スル處寔ニ大ナリ仍テ銀杯壹個並軍事功勞章ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス

感謝 狀

大 阪 府 村 田 省 藏

多年軍事ヲ幫助シ帝國海軍ニ貢獻スル處寔ニ大ナリ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス(以上 海軍大臣)